

▶ 第11回科学の甲子園参加者決定

標記の大会への出場メンバーが、宮坂怜那さん・柳澤俊瑞さん(26H)・天谷優來さん・今西陽香さん・西保秀一さん・藤田陽大さん・森本くるみさん(27H)・花井耀仁さん(17H)に決まりました。キャプテンを西保さんが務めます。渡邊貴祐さん(15H)・寺西裕誠さん・宮林弦生さん(16H)が出場メンバーをサポートします。

▶ SS探究I報告

1月31日(月)から1週間ほどの間に、1学年普通科5学級がSS探究Iの探究プロジェクトの成果を順次発表します。今年はSDGsを大テーマに据えて、「陸の豊かさ」、「健康と福祉」などのホーム毎のテーマの下で、1ホームあたり2時間で8つの班が、ホーム内で発表を行います。

▶ SSH備品紹介(続き)

今回はSSH事業で購入した生物の備品を、実習教諭の舘先生に紹介してもらいます。

【卓上型人工気象器 LEDタイプ】

1台を分け合って使用するほど生物の研究でよく使う機器です。既存の機器で用いる蛍光灯ランプが生産中止になるので、2020年にLEDタイプを52万円で購入しました。この機器では、植物の成長に必要な光と温度の条件を設定し、自然に近い状態や過酷な環境を作りだせるので、植物細胞・組織培養、植物の耐環境試験、恒温保存実験などに使っています。発展探究では2020年の「水草の戦略」、2019年の鉛による植物への影響、コシダカガンガラの生態、2018年のコケ植物の通水機能の発達の研究に使いました。低温で夏場の暑さをしのぐために、コシダカガンガラという巻貝をこの機器に入れて飼育し、ビデオカメラで生態を撮影したこともあります。

【ポータブル溶存酸素計】

採取した水に酸素がどれだけの濃度で残存しているかを測る機器です。立山自然観察実習で、弥陀ヶ原の地塘の水を調査するために購入しました。ポータブルとは言え大きなアタッシュケースに入っているので、持ち運びが不便なのが難点です。立山実習以外での使い方を現在模索しています。



左が新しい人工気象器。LEDランプ、温度・時間設定がデジタルです。右が既存の人工気象器。まだまだ現役で使えます。